

アルミ缶 リサイクル ニュース

January

1

2025

Vol. 170

CAN
to
CAN



アルミ缶リサイクル協会

Japan Aluminum Can Recycling Association

東京都豊島区南大塚1-2-12 日個連会館6階

Tel.03-6228-7764 Fax.03-6228-7769 〒170-0005

<https://www.alumi-can.or.jp>

2025年石原理事長年頭所感

旧年中は大変お世話になりました。本年も宜しくお願いいたします。2025年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は1月に能登半島地震が発生し、復興の矢先に石川県をはじめとした各地で集中豪雨に見舞われ、気が休まることはありませんでした。一方、戦争などの世界情勢からエネルギー費が高騰し、また円安や異常気象の影響により諸物価が上がり続けており、相変わらず経済動向は先行きが不安定な状況です。このような状況下、アルミ缶のリサイクル活動に携わる皆様におかれましてはさまざまな工夫をなされ、堅実な活動の推進にご尽力頂きましたことを心から感謝申し上げます。当協会としては、皆様の活動支援に引き続き鋭意取り組む所存でございますのでよろしくお願い致します。

環境面では、国内での資源循環の強化とカーボンニュートラルに向けた取り組みが引き続き重要課題となります。ご存知の通りアルミ新地金は全量を輸入に依存していますが、新地金の生産には大量のエネルギーを要し、LCAの見地からは新地金の使用を再生地金の使用へと転換することが省エネルギーになるとともに、カーボンニュートラルやネイチャーポジティブへの大きな推進力となります。日本では資源物の分別収集が進んでおり、これを国内できちんと再生利用することが上記二つの重要課題への対処に繋がります。当協会としてもこの二つの課題解決に少しでも貢献できるよう、アルミ缶の再生利用メリットを解り易くお伝えする資料を整え、リサイクル率を安定確保するとともに国内での再生利用量の拡大啓発に努める所存です。

さて昨年のアルミ缶市場は、一昨年の販売価格の値上げや酒税の改正の影響を受け清涼飲料、ビール類とも需要が減少傾向にありましたが、低アルコール飲料とビール類新商品の奮闘もあり今後に期待をしていましたところ、年末に向け若干の回復がありしたので年間需要量は昨年とほぼ同等の210億缶が見込まれます。

当協会は容器包装八団体で構成する「3R推進団体連絡会」のメンバーであり、5年毎に自主行動計画をたてて活動しています。当協会の3R推進活動は、2025年までにリデュース率6.0%の達成とリサイクル率92%以上の維持を目標にしていますが、2023年度の実績はリデュース率が6.8%、リサイクル率が97.5%となり、それぞれ2025年度目標を達成しました。しかし、これに安堵することなく引き続き更なる向上を図り、より高い目標を設定しその達成のため関係各位への支援・啓発に努めます。またCAN to CAN率(水平リサイクル率)につきましても、2023年度実績の73.8%を今一步高めよう、関係業界へ啓発を続けます。加えて昨年制定しましたアルミカップリサイクルマークの浸透を図るなど容器包装におけるアルミ缶化の推進にも努めます。



アルミ缶リサイクル協会
理事長 石原 美幸

アルミ缶はその優れたリサイクル性を持つ容器として早くから皆様に認知され、回収活動は容器包装八団体の中では比較的早期に始まり、今や全回収量の約半数を集めている集団回収団体(学校、自治会、老人会、子供会、福祉施設など)、消費者、省庁、自治体、事業者のご協力もあり、リサイクル率は安定して92%以上が維持されています。関係各位には改めて深く感謝の意を表しますとともに、長年に亘るアルミ缶回収活動へのご協力に対し厚く御礼申し上げます。当協会と致しましても表彰制度や展示会、出前教育などによりアルミ缶のリサイクル活動の啓発に努めてまいりますので、引き続き皆様のご支援を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

3R推進団体連絡会 自主行動計画2025のフォローアップ報告

12月17日、当協会を含む容器包装の3Rを推進する八団体が纏めた「自主行動計画2025」の2023年度フォローアップの記者発表を経団連会館にて行いました。

この自主行動計画は、容器包装の3R、特にリデュース、リサイクルの推進を軸に、事業者が自主的に取り組んでいるものです。

リデュースは、軽量化・薄肉化など資源の有効活用とごみの減量化を目指す取り組みで、2023年度は8素材中全ての素材が2025年度目標を上回って進捗しています。

リサイクルでは6素材(ガラスびん、PETボトル、プラスチック容器包装、スチール缶、アルミ缶、段ボール)が2025

年度目標を達成するなどの成果がみられました。

また、容器包装3R推進フォーラム、セミナーの実施や地域での3R市民リーダー育成などを継続実施しました。

普及・啓発としては、関係各主体との連携・協働への取組みを深化させました。当協会からは3R実績報告と共にアルミ缶の自主的集団回収活動が活発に行われたことを報告しました。



2024年度(令和6年度)回収協力者表彰

全国各地で表彰式

当協会は、アルミ缶の回収活動を行っている団体の中から、優秀な活動実績をあげられた方々を毎年表彰しています。本年度は全国で一般 65 団体、小・中学校 43 校(受賞者の詳細は前号 Vol.169 に掲載)、10 月中旬から 12 月にかけて全国で表彰式が開催されました。一般の部の関東地区受賞者様につきましては、11月19日に千代田区竹橋の如水会館に於いて合同表彰式が開催され、同時に本年度優秀回収拠点新規 2 社様も実施しました。

アルミ缶一般回収協力者合同表彰式【関東地区】及び アルミ缶優秀回収拠点表彰

本年度の合同表彰式は、関東地区の受賞団体17団体様をお招きして開催致しました。表彰に先立ち理事長の石原より「アルミ缶の回収においては半分以上が本日お集まりいただいた皆様様に自主的に集めていただく活動によって、まさに皆様のお力添えがあってこそそのリサイクル活動で御座います。あらためて御礼申し上げます。」と挨拶がありました。

来賓を代表して、経済産業省 製造産業局 金属課 金属技術室長 川村 伸弥 様より「カーボンニュートラルやサーキュ

ラーエコノミー、更にはSDGs 持続可能な目標の達成というものの実践に向けてこの取り組みを進めていただくことを期待したいと思います。」とご挨拶を頂きました。

乾杯に先立ち、一般社団法人 日本アルミニウム協会 専務理事 能登 靖 様より「私たちは未来の世界に美しい地球を残していく大きな責任が御座いますので皆様の活動は非常に大きな意味を持っております。そのことに感謝を申し上げたいと思います。」とご挨拶を頂きました。



理事長 石原 美幸



経済産業省 金属課 金属技術室長
川村 伸弥 様



日本アルミニウム協会 専務理事
能登 靖 様



受賞者を代表してお二方から受賞の喜びの言葉を頂きました。



品濃町内会
金子 富康 様

金子様より「行政や業者の方々にご協力いただいて、また、ここに呼んでいただける様に頑張りたいと思っております。」とのお言葉を頂きました。



株式会社 クリーンカンパニー
小野 雅敏 様

小野様より「平成16年より秋田県南地区の小中学校230校からアルミ缶 スチール缶の収集を開始しました。各学校に200ℓのボックスを置いて買取りしています。子供たちに、「混ぜればゴミ、分ければ資源」なんだということと、ポイ捨てするような大人になってほしくない、という思いで始めて20年。これからも継続していきます。」とのお言葉を頂きました。

アルミ缶優秀回収拠点表彰

昭和 58 年に「優秀回収拠点制度」を設け、当協会認定の回収拠点様の中から当協会の活動に特にご尽力、ご協力下さった拠点様を表彰しています。本年度は新規受賞として株式会社 クリーンカンパニー（秋田県雄勝郡羽後町）、坪野谷商事株式会社（栃木県下野市）の2社が、再選として2018年度に受賞した 浅口市役所 生活環境部 環境課（岡山県浅口市）、同じく2018年度に受賞した有限会社芳野（群馬県高崎市）の2社が選出されました。

優秀回収拠点受賞（敬称略）



株式会社 クリーンカンパニー



坪野谷商事株式会社



浅口市役所 生活環境部 環境課



有限会社 芳野



OMEDETO~!



エコプロ2024出展

エコプロ2024(主催(一社)産業環境管理協会、日本経済新聞社)は12月4日~6日に東京ビッグサイトで開催されました。

来場者は、3日間で約63,000人の入場があり、当協会ブースへは約1,600人となりました。

当協会のブースでは「CAN to CAN 地球にやさしい!アルミ缶リサイクル」をテーマにパネルとリサイクルの各工程のサン

プル展示を行いました。来場された方にはクイズによるエネルギーの削減率やアルミ缶のリサイクルの現状について理解を深めていただきました。

ご来場いただいた皆様誠に有難うございました。



エコプロ 2024 ブース風景

協会からのお知らせ

協会事務所が移転します。1月20日より同じ日個連会館の中ですが2階から6階に移転します。

回収拠点の皆様には、11月号に同封して書面を送り登録情報の確認を行っております。まだ、回答をされていない拠点様は回答をお願い致します。



協会からのお願い

● タブは缶から外さずいっしょにリサイクル

アルミ缶のタブは環境保護のため、缶フタから離れないようにしてあります。タブはタブだけで回収するのではなく、缶に付けた状態で丸ごと回収してください。無理にタブを取るとケガをする場合もあり危険です。

● ボトル缶のキャップの取扱い

飲料用アルミボトル缶のキャップは、アルミ製です。キャップも貴重なアルミ資源です。キャップ・本体とも軽く水洗いした後、中の水分をよく切ったうえ、キャップを軽く締めて回収してください。

※自治体によってはキャップだけを別に回収しているケースがありますので、お住いの自治体の要領に従ってください。

● アルミ缶にタバコを入れないでください

アルミ缶にタバコの吸殻を入れると、リサイクルの妨げになるだけでなく、火災の原因になる可能性があります。



編集後記

- 旧年中は色々とお世話になり誠にありがとうございました。本年も宜しくお願い致します。まだまだ寒い日が続きます。足元に気を付けて回収活動を続けてください。

アルミ缶リサイクルニュース第170号

発行日 2025年1月00日

発行人 稲林 芳人

編集人 中島 計

発行所 アルミ缶リサイクル協会